府立金岡高等学校

学校経営推進費　評価報告書（２年目）

標記について、下記のとおり提出します。

１．事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	「生徒の学力の充実」
評価指標	①「全国高等学校ビブリオバトル」等の大会連続代表出場と大会成績の向上、校内大会の定例化 ② 読書実態調査における「一カ月の読書冊数」の増加 ③ 教育産業の学力生活実態調査「平日の自宅学習時間（ラーニング・コモンズでの学習を含む）」の増加
計画名	主体的な学びの広場 「学習支援型図書室ラーニング・コモンズ」創設プロジェクト

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の中期的目標	1. 【授業革命】で「ジェネリック・スキル（汎用的能力）】を育成！〈基礎学力の定着と向上〉〈進路実現〉 (1) 生徒の主体的・能動的な学ぶ姿勢を引き出すことで「ジェネリック・スキル（汎用的能力）」を育成し、「自己肯定感」を高め、「進路実現」を強力サポートする。 (3)【骨太の日本語力養成プロジェクト】～生きる力の源泉「言葉のチカラ（言語技術）」を徹底マスターア）語彙力増強を意図し、図書室を学習支援型のラーニング・コモンズ」として、各種の情報や仕掛けを間断なく提供していく。
事業目標	【第３次大阪府子ども読書活動推進計画の一環として】利用者がほとんどいない学校のデッドスペースになっている本校図書室を、図書室コーディネーターなど専門家の協力のもと、生徒の主体的な学びのスペース「学習支援型図書室ラーニングコモンズ」として蘇らせる。可動式のテーブルや椅子を組み合わせて、自由な発想で生徒各自のニーズに合わせた自主的な学習活動を可能にするスペースを創出する。Teaching（教員が教えること）からLearning（生徒が主体的に学ぶこと）へ。グループでのディスカッションや仲間との教えあい・学びあいなど、会話をしながらの学習が可能なスペースとする。学ぶことの本来の楽しさを取り戻し、自ら積極的に学ぶ姿勢を身につけ、授業以外での勉強時間ゼロからの脱却をめざし、自学自習の習慣を身につけるサポートとしたい。また正規授業でも、アクティブ・ラーニングの実践チャレンジ道場として利用することができるスペースとする。紙媒体に限らず、無線LANを通じてタブレット端末で電子資料にも気軽にアクセス可能にする。
整備した設備・物品	可動式ワークテーブル＆チェア×42人分、タブレット端末×42台（ケース含む）、無線画像転送装置×２台、プロジェクター 一体型ホワイトボード１台、教卓１台、無線LANアクセスポイント２台、タブレット管理用パソコン１台、タブレット保管庫２台 講師（図書館コーディネーター、作家など）の招聘
取組みの主担・実施者	主担：教科横断的なラーニング・コモンズ運営プロジェクトチーム、取組みの実施者：100%全教員予定
本年度の取組内容	・図書館での校内ビブリオバトルの実施 ・無線ＬＡＮを用いての授業実施 ・可動式テーブルおよびチェアを活用しての発表形式の授業実施
成果の検証方法と評価指標	①全国高等学校ビブリオバトル（４年連続）、中高生ビブリオバトル大阪大会（３年連続）出場と校内大会の隔月開催。 ②読書実態調査における「一カ月の読書冊数」前年比50%増加 ③教育産業の学力生活実態調査「平日の授業以外の学習時間」平均30分未満の学習者30%→20%、「ほぼ毎日、自宅学習する」18.6%→60%
自己評価	①全国高等学校ビブリオバトル（４年連続）、中高生ビブリオバトル大阪大会（３年連続）出場達成。年６回校内大会実施。（〇） ②3.2冊→2.8冊読書量の増加させる取組みの充実は必要である。（△） ③教育産業の学力生活実態調査「平日の授業以外の学習時間」平均30分未満の学習者54.1%→47.1%、「ほぼ毎日、自宅学習する」14.2%→20.3%目標が高すぎて目標には到達しなかったものの徐々に成果が出ている。（△）
次年度に向けて	ビブリオバトルの校内大会を盛り上げることによって読書量の増加をめざす。校内大会については定期考査の関係もあり、開催回数の増加は難しいが参加人数を倍増し、校外大会出場者の質の向上を図る。 授業での図書室の使用頻度を上昇させ、本に触れ合う機会を増加させる。 また、長期休暇の講習実施時に、自習室機能をフル稼働し、授業以外の学習時間の増加を図る。